



幕南学校だより

一人一人のよさを伸ばし、豊かな心を育てる

特別号

令和2年2月6日
千葉市立幕張南小学校

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。集計が終わりましたので、結果をお知らせいたします。昨年度とアンケート項目を少し変更しましたので、単純な比較は出来かねますが、下記のようにまとめました。

私たち大人は、できることよりできないことに目を向けてしまいがちです。しかし、アンケート項目はすべて、私たち大人でさえ、6~7割できればかなり良いことばかりです。昨年度と比較して、〇〇ポイント上がった等という考察ではなく、私たち大人が私たちの子供にこうあってほしいという姿について、客観的に現状の意識を把握するツールとして役立てていきたいと考えております。

令和元年度 学校評価アンケート結果

「とてもそう思う」「少しそう思う」の合計人数を、割合で表しています。

右のH30はH30・2回目、①はR1・1回目、②はR1・2回目

アンケート項目	児童(%)			保護者(%)			教職員(%)		
	H30	①	②	H30	①	②	H30	①	②
1 「おはよう」「いただきます」等、挨拶を元気にしますか	96	92	92	93	92	88	76	95	95
2 「ありがとう」「ごめんなさい」等、言葉を口に出して言いますか		93	92		89	91		86	95
3 困っている人や弱い立場の人にやさしく接したり助けたりしますか	87	88	88	95	94	93	94	95	95
4 友達や家族の良いところについて言葉にして言いますか	97	78	74	97	84	87	94	86	100
5 自分の良いところをわかっていますか		76	71		80	83		71	82
6 本を読んでいますか	87	86	81	75	65	67	93	80	90
7 学校や家庭での生活時間を守ろうとしていますか		86	84		72	72		70	83
8 自分の持ち物を大切にしていますか	93	91	90	77	61	66	44	50	86
9 自分の身の回りの整理整頓をしていますか		82	80		46	52		65	95
10 人の話を聞くと、話をしている人を見て、話を聞いていますか		92	91		75	77		71	67
11 話を聞いている人に伝わるように、話をしますか		91	85		77	77		37	70
12 前日に学習準備をしていますか	86	90	89	84	81	81	47	68	68
13 宿題をしていますか	85	94	95	87	97	96	79	84	89
14 早寝・早起きをしていますか	82	84	76	88	81	81	93	90	89
15 朝ご飯を食べていますか		96	96		96	97		100	100
16 外で遊びますか	83	88	89	87	86	83	93	90	100
17 けがや病気をしないように気をつけていますか	85	93	89	89	89	91	60	75	89
18 やると決めたことは最後までやり通しますか	91	88	87	86	82	87	100	60	100

学校評価アンケートの考察

子供たち、保護者、教職員、それぞれの現状意識は全般的に肯定的です。特に、挨拶や大切な言葉等は9割以上の子供たちが肯定的です。保護者も教職員も意識の差がなく、全般によくできていると認識しています。反面、意識に差が見られるのは3点あります。

1点目は、「友達や家族の良いところについて言葉にして言う」「自分の良いところをわかっている」で、自己肯定感についての項目です。私たち大人は心して、子供たちの良いところや成長を感じたところを言葉にして伝えていく必要があると感じます。さらに人は、次にやることを気にしたり、他人と比べたり、速さを気にしたりすると、今のことにじっくり落ち着いて向かうことが難しくなる傾向があります。ですから子供たちには心して、「次のことは気にしないで今のことをやればいいよ」とか、「速さより一生懸命心をこめてやるのがいいよ」と声をかける必要があります。

2点目は、「物を大切にする」「整理整頓」で、気持ちよく快適に生活するための基本の項目です。子供たちの意識はかなり肯定的ですが、保護者と教職員の意識はそれほど高くはありません。しかし、そのような中で教職員の意識は、前期と後期で変化しています。その理由の一つは、私たち教職員の意識改革にあるのではないかと考えています。第1回学校評価アンケート結果から、私たち教職員は、「できないことばかりに目を向けるのではなく、できたことに目を向けよう」と自分たちの意識改革に取り組みました。また本年度は当初から、学校経営の柱の一つとして「環境が人を作る」を合言葉に、施設や物品の整理整頓に努めてきました。その成果がようやく見られるようになったのではないかと感じています。今後も、子供がちょっと頑張ればできることに焦点を当て、それができるように声かけをし、それができたら褒めて認めるということを積み重ね、快適な生活を目指します。

3点目は「人の話を聞く」「人に伝わるように話をする」の項目です。子供たちは本当に人に伝わるように話をしているのか、私たち大人は話をさせているのかについて考えさせられる項目です。学校における子供たちのもめ事の大半は「言った」「言っていない」です。もう少し詳しく言うと「思ったけれど、その時その場で相

手に言わなかった」「言ったけれど、相手には聞こえていなかった」「相手が言ったかもしれないが、聞いていなかった」です。この理由は何なのでしょう。それは「相手に伝わるように話をしていない」からだと思えました。そこで私たち教職員は、第1回学校評価アンケート結果から、「伝えるコツ」の実践に取り組みました。それは、①相手に何を伝えるのか、話す前に考える ②結論→理由→具体例もしくは提案の順序で話し、端的な話し方を身につける ③質問や回答について、一言で返せるように訓練する ④自分の常識を当たり前だと思わない ⑤相手にわかりやすく伝える努力をする の5点です。今後も続けて指導します。

保護者アンケートの自由記述欄にもご意見をいただきました。この誌面をお借りして回答すべきことがあります。まず、『何のために勉強するのか』に対する明確な答えを、まずは子供たちに教えるべきであるというご意見を頂戴しました。正にその通りです。勉強することの意味を知らずに勉強することはできません。私たち大人が、教師として親として、言葉と行動でこれに対する答えを子供たちに示さなくてはなりません。そしてその答えは、「自分のためだけでなく、人のため、世界のために働ける大人になるために学ぶ」です。さらに付け加えさせていただければ、人生は学校を出てから、大人になってから自分でどう学ぶかだと思います。必要なら大人になってからでも学ばばいいのです。自己教育できる人になるのが教育の最終目標なのではないでしょうか。

また、本校は公立学校であるがゆえ、限られた財源と人材で、法律に則って運営されており、施設や備品、学級編制等は私たち教職員の力が及び難しいところでもあります。しかし、限られた中で、できるだけことは誠心誠意込めて行います。

最後に、私たち教職員も人間ですから、間違えることもあります。そんな時、素直に自らの間違いを認め、訂正することができるか、自分にも他人にも誠実であるか、それは子供たちの前に立つ上で、最も重要な点でもあります。全てできなくても、できない人間が努力している姿を、いつも子供たちに見せている、それが教育の一番大事な点だと考えています。引き続き、ご理解とご協力をお願い致します。

(文責 校長 雑賀 ますみ)